

高田と知識人とのエピソード

武者小路実篤 (1885-1976)

■小説家、劇作家。理想社会の実現を目指し宮崎県と埼玉県に「新しき村」を創設する。

1927年、高田は27歳の時、高村光太郎の勧めで武者小路実篤主唱の「大調和展」へ彫刻作品を出品します。これを機に二人の交友は始まりますが、親睦を深めたのはそれから10年後、武者小路がヨーロッパ旅行で一か月ほどパリに滞在した時でした。武者小路はほぼ毎日高田のアパートで高田が作ったフランス料理を食べ、一緒に美術館や画廊を歩き回り、画家のマティスやピカソを訪ねました。

高田は後に「もうパリにも私にもあんなに呑気であつたのしく、それでいつも「美」のことを語りあうような時は戻ってこないだろう」と回想しています。



1961年 東京



1958年 東京

中原中也 (1907-1937)

■詩人。代表作『山羊の歌』『在りし日の歌』

中原中也と高田は友人の紹介で知り合い、それから高田が渡仏するまでの数年間、中原は西荻窪の高田のアトリエを頻りに訪ねました。ある日、中原が持ってきた分厚い未発表の原稿を読んだ高田は「…馬鹿に見えても、犬みたいに、心情の骨の髄までしゃぶりつくす奴が他にいるか！」と感想を述べ、それを聞いた中原は「あなた一人だ。それが解るのは…」と泣き出したといひます。

また、高田は「私が中原の顔を彫刻にしようと思ったのは、彼を知ってすぐではなかった。子供くさい顔が、よく見ているとそうでないのがある」と著書に記しています。

ロマン・ロラン (1866-1944)

■フランスの作家、思想家。1915年ノーベル文学賞受賞。

代表作『ジャン・クリストフ』『ペートル・ヴェンの生涯』

高田は少年時代からロマン・ロランの哲学思想に感銘を受け、1926年に高村光太郎、詩人の片山敏彦らと「ロマン・ロラン友の会」を結成しました。1931年、高田は先に渡仏していた片山に連れられ、スイスのロラン邸を訪ねます。高田の作品の写真をみたロランは、その後すぐに片山へ手紙を送り「タカタに伝えてほしい。彼に私の像を作る気はないか？私はこの15年誰にも自分の像を作ることを断ってきたが、彼には作ってほしい。彼は内部を引き出す…」ロランもまた高田の作品に感銘を受けたのです。

それから20年間親交は続き、高田にとってロランは「唯一の師」でした。



1961年 東京

※彫刻写真の下に、制作年・制作地を記載しています。

高坂彫刻プロムナードの彫刻の作者

高田博厚とは どんな人物だったのか

高田博厚は日本国内だけでなく、フランスでもさまざまな知識人と出会い、交友を深めました。彫刻家としてのみならず、思想家としても厚い信頼を得た人でした。

今回は幅広い交友関係の中から、東松山市が所有する肖像彫刻のモデルとなった友人たちとのつながりをご紹介します。



室町澄子さんの肖像彫刻を制作中の高田博厚

彫刻家 高田博厚 (1900-1987)

石川県生まれ。日本を代表する彫刻家・思想家・随筆家。18歳で上京し、彫刻家で詩人の高村光太郎と親交を深め、21歳の時に高村から借り受けた彫刻台で彫刻制作を始める。30歳で渡仏し、文豪ロマン・ロランや哲学者アランなどヨーロッパの知識人と交流しながら活動し、第二次世界大戦中もフランスに留まる。57歳で帰国した後も精力的に創作活動を始め、86歳でその生涯を閉じた。

高田博厚と高坂彫刻プロムナード

高村光太郎と親交のあった元東松山市教育長の田口弘が、1965年に高村光太郎を偲ぶ連翹忌で高田博厚に出会います。その後、東松山市で彫刻展や講演会を開催するなど親交を深めるようになりました。

そのころ東松山市では、高坂駅西口土地区画整理事業を実施しており、事業の完了に際し、田口が「一人の一流作家の作品で飾る彫刻通りが実現できれば、全国に誇れる彫刻通りになる」と提言し、高田はそれに応じました。

1986年に2体、1987年に14体、1989年に11体、そして1994年に5体を設置し、現在の高坂彫刻プロムナードの形になりました。



1966年 鎌倉

マハトマ・ガンジー (1869-1948)

■インドの民族運動の指導者。インド独立の父。

1931年11月、ロマン・ロランから高田のもとに交通費が同封された書留郵便が届きます。マハトマ・ガンジーがロラン邸に1週間滞在することになり、ロランの友人の中で高田だけがその会談の席に誘われたのです。

高田は小さい体のガンジーが放つ圧倒的な強い存在感に衝撃を受けます。その時のスケッチをもとに何度もガンジーの肖像を作ろうとしましたが納得したものが作れず、現存するガンジー像は帰国後日本で制作されたものです。



ロラン邸を訪問したガンジー (左ロラン、右ガンジー)

Takasaka Sculpture Promenade



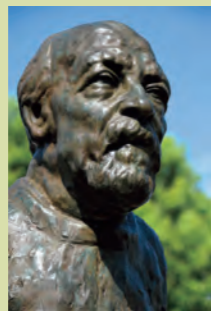
1959年 東京

ポール・シニャック (1863-1935)

■点描法を発展させたフランス新印象派の代表的画家。

1931年、ポール・シニャックの自宅を訪れた高田は、初対面のシニャックとセザンヌの絵を前にして芸術論で意気投合します。この時シニャックは68歳で既に大家でした。

高田の資質を見抜いたシニャックは、フランスでは無名の彫刻家であった高田を、自分が主唱するアンデパンダン展に推薦しました。



1961年 東京

高村光太郎 (1883-1956)

■彫刻家、詩人。代表作『乙女の像』(彫刻)『道程』『智恵子抄』

1918年、18歳で上京した高田は、友人の画家宮沢直に誘われ高村光太郎のアトリエを訪ねます。高村は17歳も年の離れた高田を対等の存在として扱い、友情を深めました。そして高田を彫刻の道へと導きます。

高田が渡仏してから高村は「君が行ってしまってから、彫刻の話のできる相手がいなくなってしまった」と手紙を送り、それに対して高田は「私にとっても彼ひとりだった」と著書に記しています。



1959年 東京

アラン (1868-1951) 1932年 パリ

■フランスの哲学者。代表作『幸福論』

高田とアランは詩人のマルセル・マルチネの紹介で知り合います。マルチネは貧しい高田を助けるため、高田がアランの像を作ることを決めていたのでした。当時、高田はアランの作品を読んだことがなく、会うことを躊躇していましたが、アランに初めて会って以来その高潔な精神と思想性に強く惹かれました。

また、アランは高田が作った自分の胸像の写真を見て「タカタは本物だ」と友人に話しています。

※高坂彫刻プロムナードの詳細は市HPをご覧ください。



QRコード

彫刻家 高田博厚展2020

□展示会

■10月7日(水)～11月3日(祝)午前9時～午後5時

■場 総合会館1階多目的室

□特別講演会

高田と親交があり、彫刻作品のモデルになった元NHKアナウンサーの室町澄子さんに、高田との出会いからモデルになった経緯、高田が室町さんの彫刻に込めた思いなどを語っていただきます。

■10月25日(日)午後2時～3時30分

■場 総合会館4階多目的ホール

■定 80人(申込順)

■申・問 社会教育課 ☎21-1431 ☎23-2239



室町澄子さん

市では、高田博厚の鎌倉のアトリエに残されていた彫刻作品やデッサン、書簡等を2017年にご遺族から寄贈していただきました。以後、顕彰事業として展示会や講演会を開催しています。

高田の生誕120周年となる今年は、市の取組に賛同する群馬県立近代美術館の岡部昌幸館長に協力をいただきました。

"人びとの思いを伝える彫刻と街づくり"



岡部昌幸さん

帝京大学教授
群馬県立近代美術館特別館長

彫刻は重くかつ繊細、台座の基礎造りも大ごとで保存や周辺環境にも配慮しなければならぬ大変手間のかかる芸術です。しかし、歴史上、社会やコミュニティで、人びとの集う場を息づかせ、人びとの思いを伝えるのに、

もっともふさわしいものは彫刻でした。この彫刻の、時空を超えたリアルな実在感に私も魅了され、日本の近代でそれを生み出した先達の彫刻家の偉大さ、その価値の大きさを見直さなければならぬと感じてきました。その大切さ・価値が、東松山市では、歴代の行政によって認識され、素晴らしい街づくりが行われています。それを愛する市民や関係者と出会ったことが私にとって感激で、皆さまとともに、その感動を高田博厚の生誕120周年記念事業の企画で少しでも全国に発信したく思います。

埼玉県立近代美術館情報

「2020 MOMASコレクション第2期」開催中

ポール・シニャック「アニエールの河岸」、ジョルジュ・ルオー「横向きのピエロ」を鑑賞することができます。

期間 10月18日(日)まで

※詳細はHPをご確認ください。

HP <https://pref.spec.ed.jp/momas/>



1974年 鎌倉

ジョルジュ・ルオー(1871-1958)

■敬虔なカトリック教徒で20世紀最大の宗教画家。

高田は、パリに来ていた武者小路実篤とともに1933年に初めてルオーを訪ねて以降、年齢を超えた深い親交を結びます。

ルオーの次女で画家のイザベル・ルオーからも信頼を寄せられました。また高田は、日本におけるルオー研究の第一人者でもあります。

シャルル・ヴィルドラック(1882-1971)

■フランスの作家、詩人、劇作家。

シャルル・ヴィルドラックは1926年来日し、その際に詩人の尾崎喜八らと歓迎会を開き親しくなりました。高田がフランスに渡ると、ヴィルドラックは友人を紹介したり夕食に招待するなど高田を支え、その友情は高田が57歳で帰国した後も続きました。

高田にとってヴィルドラックは、数多いフランスでの友人の中で親友中の親友でした。



1968年 鎌倉

参考文献 高田博厚著作集(朝日新聞社)
高田博厚作品集(福井市美術館)

彫刻家高田博厚巡回展

市内の公共施設で彫刻の作品巡回展を行っています。亡くなる86歳まで精力的に創作し続けた高田の作品をぜひご覧ください。



日にち	場所
9月1日(火)～15日(火)	大岡市民活動センター
11月5日(木)～19日(木)	平野市民活動センター
11月20日(金)～12月4日(金)	唐子市民活動センター
12月5日(土)～18日(金)	野本市民活動センター
1月15日(金)～31日(日)	松山市民活動センター (ウォーキングセンター)
2月1日(月)～15日(月)	高坂丘陵市民活動センター
3月1日(月)～15日(月)	高坂市民活動センター

※展示内容は、会場により異なります。



問 社会教育課 ☎21-1431 ☎23-2239